

漁況予報 い わ し

第217号

【2020年1～2月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、11月は3.1トンで前年（626kg）を大きく上回り、平年^{※1}（3.4トン）並でした。12月は100kgで前年（0kg）を大きく上回りましたが、平年（420kg）を大きく下回りました。

まき網は、11月、12月ともに水揚げはありませんでした。

魚体は、11～13cm（被鱗体長^{※2}、以下同）の0歳魚（2019年生まれ）主体であったと考えられます。

【2019年概況】神奈川県における2019年のマイワシ漁獲量は、主要定置網1,007トン、まき網31トンの合計1,038トンで、前年（1,890トン）および平年（1,471トン）を下回りました。4月に中～大羽イワシのまとまった来遊があったものの、夏季以降に0歳魚（2019年級群）の漁獲量が伸びませんでした。マイワシ太平洋系群は加入量の良好な状況が続いており、今後本県沿岸への更なる来遊に期待したいところです。

【カタクチイワシ】

主要定置網における11月のカタクチイワシ総漁獲量は1.2トンで、不漁であった前年（358kg）を下回ったものの、平年（1.6トン）を下回りました。つづく12月の漁獲量は5kgで前年（58kg）および平年（13トン）を大きく下回りました。

【2019年概況】神奈川県における2019年のカタクチイワシ総漁獲量は、主要定置網221トン、まき網99トンの合計320トンであり、前年（397トン）を下回り、また、平年（2,766トン）を大きく下回りました。多くの月で来遊量が平年を下回る水準で推移し、8月以降はほとんど漁獲がなくなりました。国等の資源量調査によれば沖合海域における分布量は確実に減少しているとされており、引き続き沿岸発生群の動向を注視していく必要があります。

【シラス】

例年ほど夏シラス漁の落ち込みがなかった半面、秋シラスの盛り上がりは今一つだった相模湾のシラス漁ですが、11月は西高東低の漁模様が続き、全体としては不調だった10月の2倍ほどを漁獲しましたが、前年、平年を下回りました（前年比0.8倍、平年比0.8倍）。12月も西高東低の傾向のまま前年、平年並みの漁模様が終漁を迎えました（前年比1.2倍、平年比1.0倍）。

【2019年概況】神奈川県における2019年のシラス総漁獲量（標本船データからの推定値）は、前年を若干上回る331トンとなりました（前年比1.1倍、平年比0.8倍）。解禁直後は極端な西高東低で始まり、5月は全域で好漁となりました。夏シラスの大きな落ち込みは見られず、秋以降は伊勢・三河湾のような12月の好漁もなく、比較的平坦な漁模様となりました。

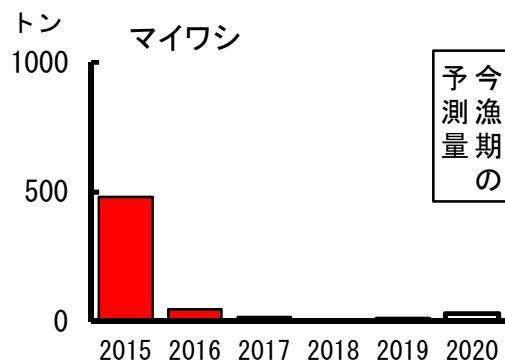
= 予報 =

【マイワシ】

今漁期は、2019年生まれの中羽マイワシ（12～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

マイワシ太平洋系群が増加傾向であることと、相模湾への断続的な暖水波及が見込めることから、今漁期の漁獲量は、前年を上回る約30トンと予測されます。

過去5年の1・2月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

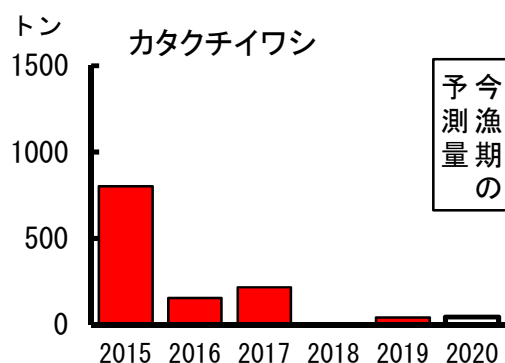


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、未成魚（7～8cm）及び小型成魚（9～10cm）が漁獲の主体となり、沖合海域から来遊する大型成魚（12～14cm）が僅かに混じるでしょう。

前年同期同様、親潮の南下勢力が弱いため来遊量は伸びないでしょう。今漁期の漁獲量は、低水準ながら前年を上回る約47トンと予測されます。



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

神奈川県の上りシラス漁は、1月1日から3月10日まで禁漁です。当所では解禁後の漁況予測のため、神奈川県上りシラス船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年も1～3月に禁漁期調査を実施します。調査の状況については、次号で報告する予定です。

神奈川県水産技術センター栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314